

## ◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、6.38(249例)で、先週(4.59)より増加しています。年齢階級別では、広範囲での報告となっていますが、1歳が39例(15.7%)で最も多く、次いで4歳 28例(11.2%)、3歳 26例(10.4%)です。例年冬季に報告数が多くなっていますので、御注意下さい。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は2.08(81例)で、先週(1.18)より増加し、過去5年平均値(1.33)をも上回る値となっています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌感染症の定点当たり報告数は1.64(64例)で、2週連続で増加しています。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は、1.38(54例)です。第28週(7月11日～7月17日)をピークに減少してきましたが、第46週(11月14日～11月20日)以降、1.30前後と例年の同時期に比べ多い状態で推移しています。

## ◆ 今週のトピックス: &lt;インフルエンザ&gt;

インフルエンザの定点当たり報告数は0.56(37例)で、先週(0.20)の約3倍となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

## 全数把握の感染症

ありません

## 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66、小児科定点39、眼科定点10、基幹定点1)

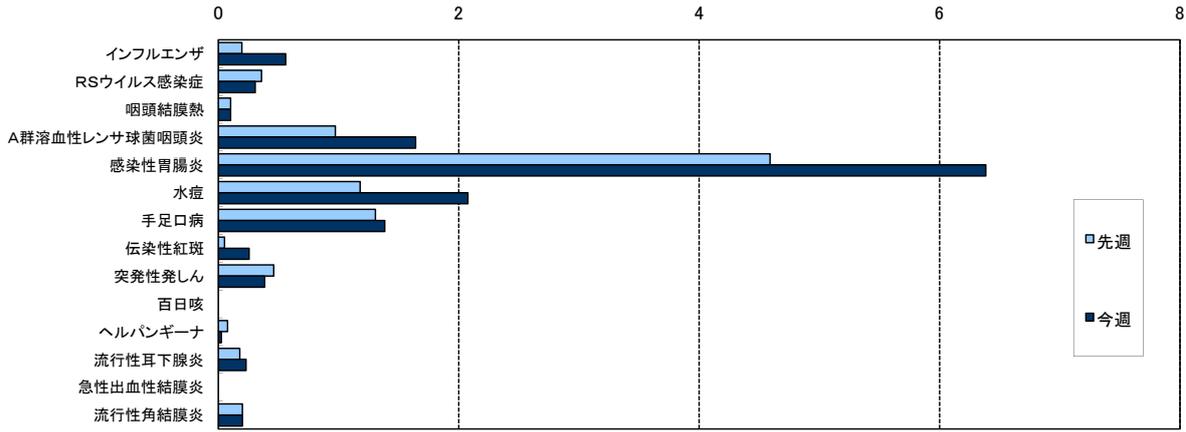
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.56	37
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.38	249
	② 水痘	2.08	81
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.64	64
	④ 手足口病	1.38	54
	⑤ 突発性発しん	0.38	15
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

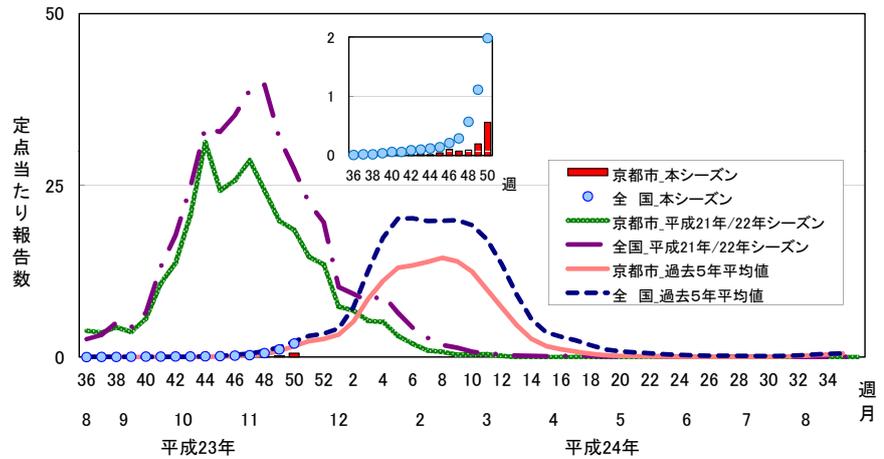
(注) 京都市のデータは、平成23年12月22日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ



## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第46週	7
第47週	5
第48週	6
第49週	13
第50週	37
累積報告数 (第36週以降)	77

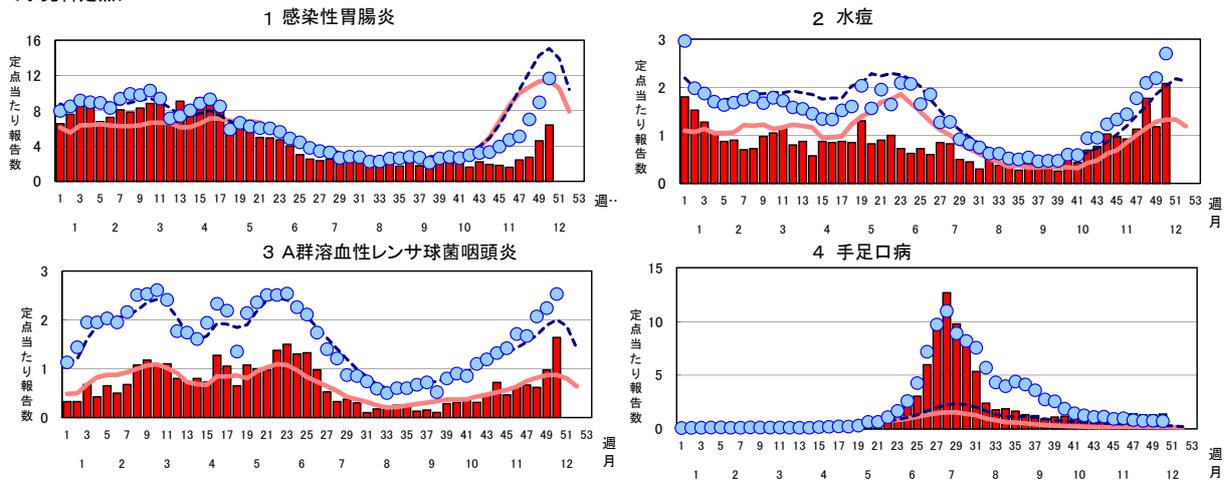


※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH17-H21年の平均値です。

※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

